

ppm 以下).

(5) ヒ素 本品 2.0 g をとり, 第 3 法により検液を調製し, 装置 B を用いる方法により試験を行う (1 ppm 以下).

(6) 還元性物質 本品の水溶液 (1 → 20) 5 mL にフェーリング試液 5 mL を加え, 2 分間煮沸するとき, 赤褐色の沈殿を生じない.

乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, 105 °C, 4 時間).

強熱残分 0.10 % 以下 (1 g).

定量法 本品を乾燥し, その約 0.4 g を精密に量り, 水 25 mL に溶かし, 0.1 mol/L 塩酸で滴定する (指示薬: メチルレッド試液 2 滴).

0.1 mol/L 塩酸 1 mL = 19.521 mg C₇H₁₇NO₅

貯法 容器 気密容器.

メチルセルロース

Methylcellulose

本品はセルロースのメチルエーテルである. 本品を乾燥したものは定量するとき, メトキシ基 (-OCH₃: 31.03) 26.0 ~ 33.0 % を含む.

本品はその動粘度を平方ミリメートル毎秒 (mm²/s) の単位で表示する.

性状 本品は白色~帯黄白色の粉末又は粒で, においはないか, 又はわずかに特異なにおいがあり, 味はない.

本品はエタノール (99.5), アセトン又はジエチルエーテルにほとんど溶けない.

本品に水を加えるとき, 膨潤し, 澄明又はわずかに混濁した粘稠性のある液となる.

確認試験

(1) 本品 1 g に熱湯 100 mL を加え, かき混ぜながら室温まで冷却し, 試料溶液とする. 試料溶液 5 mL にアントロン試液を穏やかに加えるとき, 境界面は青色~青緑色を呈する.

(2) (1) で得た試料溶液 0.1 mL に薄めた硫酸 (9 → 10) 9 mL を加えて振り混ぜ, 水浴中で正確に 3 分間加熱した後, 直ちに氷水浴中で冷却し, ニンヒドリン試液 0.6 mL を注意して加えて振り混ぜ, 25 °C で放置するとき, 液は紅色を呈し, 更に 100 分間放置後も紫色に変化しない.

(3) 本品 5 mg を小試験管にとり, 25 % 含水過酸化ベンゾイルのアセトン溶液 (1 → 10) 2 滴を加え, 水浴上で蒸発乾固し, 下端にクロモトローブ酸試液を付けたガラス棒をその小試験管にコルク栓で固定し, 125 °C の浴中で 5 ~ 6 分間加熱するとき, クロモトローブ酸試液は赤紫色を呈する.

(4) (1) で得た試料溶液を水浴中で加熱するとき, 白濁又は白色の沈殿を生じ, 冷却するとき, 白濁又は沈殿は消失する.

粘度 本品の換算した乾燥物 2.000 g に対応する量を正確に量り, 85 °C の水 98 mL を加え, かき混ぜ機を用いて 10 分間かき混ぜる. 更に 40 分間かき混ぜながら氷水中で試料を溶かした後, 水を加えて 100.0 g とし, 必要ならば遠心分離して泡を除き, 20 °C で粘度測定法第 1 法により試験を行うとき, 表示単位の 80 ~ 120 % である.

pH 本品 1.0 g に熱湯 100 mL を加え, 振り混ぜて懸濁し, 冷却した液の pH は 5.0 ~ 8.0 である.

純度試験

(1) 溶状 本品 0.5 g に熱湯 20 mL を加え, 水浴上で加熱しながらよくかき混ぜて分散させる. 5 °C に冷却した後, 水を加えて 50 mL とし, ネスラー管に入れ, 液の濁度を側方から観察するとき, 次の比較液より濃くない.

比較液: 0.005 mol/L 硫酸 2.0 mL に希塩酸 1 mL, 水 45 mL 及び塩化バリウム試液 2 mL を加えて混和し, 10 分間放置した後, 振り混ぜて用いる.

(2) 塩化物 本品 1.0 g に熱湯 30 mL を加えてよくかき混ぜ, 水浴上で 10 分間加熱した後, 熱時傾斜してろ過し, 残留物を熱湯でよく洗い, 洗液をろ液に合わせ, 冷後, 水を加えて 100 mL とする. この液 5 mL に希硝酸 6 mL 及び水を加えて 50 mL とする. これを検液とし, 試験を行う. 比較液には 0.01 mol/L 塩酸 0.40 mL を加える (0.284 % 以下).

(3) 重金属 本品 2.0 g をとり, 第 2 法により操作し, 試験を行う. 比較液には鉛標準液 2.0 mL を加える (10 ppm 以下).

(4) 鉄 本品 0.20 g をとり, 第 3 法により検液を調製し, A 法により試験を行う. 比較液には鉄標準液 2.0 mL を加える (100 ppm 以下).

(5) ヒ素 本品 1.0 g をとり, 第 3 法により検液を調製し, 装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下).

乾燥減量 5.0 % 以下 (1 g, 105 °C, 1 時間).

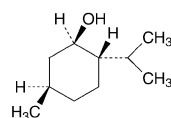
強熱残分 1.0 % 以下 (1 g).

定量法 本品を乾燥し, その約 0.025 g を精密に量り, メトキシ基定量法により試験を行う.

貯法 容器 密閉容器.

dl-メントール

dl-Menthol



及び鏡像異性体

C₁₀H₂₀O : 156.27

(1*RS*,2*SR*,5*RS*)-2-Isopropyl-5-methylcyclohexanol
[I5356-70-4]

本品は定量するとき, dl-メントール (C₁₀H₂₀O) 98.0 % 以上を含む.

性状 本品は無色の結晶で, 特異でそう快な芳香があり, 味は初め舌をやくようで, 後に清涼となる.

本品はエタノール (95) 又はジエチルエーテルに極めて溶けやすく, 水に極めて溶けにくい.

本品は室温で徐々に昇華する.

確認試験

(1) 本品を等量のカンフル, 抱水クロラル又はチモール

とすり混ぜるとき、液化する。

(2) 本品 1 g に硫酸 20 mL を加えて振り混ぜるとき、液は混濁して黄赤色を呈するが、3 時間放置するとき、メントールのにおいのない澄明な油層を分離する。

凝固点 27 ~ 28 °C

旋光度 $[\alpha]_D^{20}$: -2.0 ~ +2.0° (2.5 g, エタノール (95), 25 mL, 100 mm).

純度試験

(1) 蒸発残留物 本品 2.0 g を水浴上で蒸発し、残留物を 105 °C で 2 時間乾燥するとき、その量は 1.0 mg 以下である。

(2) チモール 本品 0.20 g をとり、酢酸 (100) 2 mL, 硫酸 6 滴及び硝酸 2 滴の冷混液を加えるとき、液は直ちに緑色~青緑色を呈しない。

(3) ニトロメタン又はニトロエタン 本品 0.5 g をフラスコにとり、水酸化ナトリウム溶液 (1 → 2) 2 mL 及び過酸化水素 (30) 1 mL を加え、還流冷却器を付け、10 分間穏やかに沸騰させる。冷後、水を加えて正確に 20 mL とし、ろ過する。ろ液 1 mL をネスラー管にとり、水を加えて 10 mL とし、希塩酸を加えて中和し、更に希塩酸 1 mL を加え、冷後、スルファニル酸溶液 (1 → 100) 1 mL を加えて 2 分間放置した後、*N,N*-ジエチル-*N'*-1-ナフチルエチレンジアミンシュウ酸塩溶液 (1 → 1000) 1 mL 及び水を加えて 25 mL とするとき、液は直ちに赤紫色を呈しない。

定量法 本品約 2 g を精密に量り、無水ピリジン/無水酢酸混液 (8 : 1) 20 mL を正確に量って加え、還流冷却器を付け、水浴上で 2 時間加熱する。次に冷却器を通じて水 20 mL で洗い込み、1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する (指示薬: フェノールフタレイン試液 5 滴)。同様の方法で空試験を行う。

1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 156.27 mg C₁₀H₂₀O

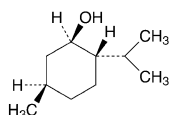
貯法

保存条件 冷所に保存する。

容器 気密容器。

l-メントール

l-Menthol



C₁₀H₂₀O : 156.27

(1*R*, 2*S*, 5*R*)-2-Isopropyl-5-methylcyclohexanol

[2216-51-5]

本品は定量するとき、l-メントール (C₁₀H₂₀O) 98.0 % 以上を含む。

性状 本品は無色の結晶で、特異でそう快な芳香があり、味は初め舌をやくようで、後に清涼となる。

本品はエタノール (95) 又はジエチルエーテルに極めて溶けやすく、水に極めて溶けにくい。

本品は室温で徐々に昇華する。

確認試験

(1) 本品を等量のカンフル、抱水クロラル又はチモールとすり混ぜるとき、液化する。

(2) 本品 1 g に硫酸 20 mL を加えて振り混ぜるとき、液は混濁して黄赤色を呈するが、3 時間放置するとき、メントールのにおいのない澄明な油層を分離する。

旋光度 $[\alpha]_D^{20}$: -45.0 ~ -51.0° (2.5 g, エタノール (95), 25 mL, 100 mm).

融点 42 ~ 44 °C

純度試験

(1) 蒸発残留物 本品 2.0 g を水浴上で蒸発し、残留物を 105 °C で 2 時間乾燥するとき、その量は 1.0 mg 以下である。

(2) チモール 本品 0.20 g をとり、酢酸 (100) 2 mL, 硫酸 6 滴及び硝酸 2 滴の冷混液を加えるとき、液は直ちに緑色~青緑色を呈しない。

(3) ニトロメタン又はニトロエタン 本品 0.5 g をフラスコにとり、水酸化ナトリウム溶液 (1 → 2) 2 mL 及び過酸化水素 (30) 1 mL を加え、還流冷却器を付け、10 分間穏やかに沸騰させる。冷後、水を加えて正確に 20 mL とし、ろ過する。ろ液 1 mL をネスラー管にとり、水を加えて 10 mL とし、希塩酸を加えて中和し、更に希塩酸 1 mL を加え、冷後、スルファニル酸溶液 (1 → 100) 1 mL を加えて 2 分間放置した後、*N,N*-ジエチル-*N'*-1-ナフチルエチレンジアミンシュウ酸塩溶液 (1 → 1000) 1 mL 及び水を加えて 25 mL とするとき、液は直ちに赤紫色を呈しない。

定量法 本品約 2 g を精密に量り、無水ピリジン/無水酢酸混液 (8 : 1) 20 mL を正確に量って加え、還流冷却器を付け、水浴上で 2 時間加熱する。次に冷却器を通じて水 20 mL で洗い込み、1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する (指示薬: フェノールフタレイン試液 5 滴)。同様の方法で空試験を行う。

1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 156.27 mg C₁₀H₂₀O

貯法

保存条件 冷所に保存する。

容器 気密容器。

モクツウ

Akebia Stem

AKEBIAE CAULIS

木通

本品はアケビ *Akebia quinata* Decaisne 又はミツバアケビ *Akebia trifoliata* Koidzumi (*Lardizabalaceae*) のつる性の茎を、通例、横切したものである。

性状 本品は円形又はだ円形の切片で厚さ 0.2 ~ 0.3 cm, 径 1 ~ 3 cm である。両切面の皮部は暗灰褐色を呈し、木部は淡褐色の道管部と灰白色の放射組織とが交互に放射状に配列する。髄は淡灰黄色で、明らかである。側面は灰褐色で、円形又は横に長いだ円形の皮目がある。

本品はほとんどにおいがなく、味はわずかにえぐい。

本品の横切片を鏡検するとき、主として結晶細胞列を伴う